



今月の話題

- 佐竹教授による遠隔 IISEE セミナーの開催予告(12月20日)
- 研修生訪日について
- 中米アメリカにおける大地震と火山活動との関係に関する新発見～国際地震工学研修の元研修員(コスタリカ共和国より)が同研修における研究成果として発表～

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

佐竹教授による遠隔 IISEE セミナー開催予告(12月20日)

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎、主任研究員 藤井雄士郎

東京大学の佐竹教授による遠隔での IISEE セミナーに皆様を招待できることをうれしく思います。

ぜひご参加ください。

日付・時間: 12月20日(月)9:50-11:30(日本時間)

内容:

9:50-10:00 最近の IISEE の活動紹介 (Zoom)

10:00-11:00 Ten years from Tohoku earthquake and tsunami (佐竹教授) (Zoom)

11:00-11:30 議論 (Spatial Chat)

講師: 佐竹 健治 教授(東京大学地震研究所 所長)

開催者: 建築研究所 国際地震工学センター

セミナーにご参加いただける方は、次の応募フォームからご登録ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd6EEVD6shEK4_90hwhkVFhp838DP0IGdaaBQy6snELmi_HSQ/viewform

録画されたセミナーをご覧になりたい方は、応募フォーム上にご記載ください。後日、リンクとパスワードをお送りいたします。

このセミナー情報を皆様の職場の同僚や後輩の方にお伝えください。また、他の職場の若手研究者の方々にもお知らせいただけますと幸いです。

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

ISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



研修生訪日について

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

新型コロナウイルスの世界的感染という厳しい状況の中、若い研究者や技術者を対象とした地震工学通年研修の開講式がリモートで開催(10月5日(火))され、約1年間の研修がスタートし、訪日可能な研修生から順次訪日してきました。

第一陣は、10月26日(火)と10月27日(水)の両日にエルサルバドル(2)、フィジー(1)、インドネシア(6)、フィリピン(1)、アルジェリア(1)、バングラデシュ(1)、ガーナ(1)、ペルー(1)の14名が訪日し11月12日(金)に建築研究所へ通学を開始し、第二陣は11月2日(火)と11月6日(土)にブータン(1)と東ティモール(1)が訪日し、12月上旬に建築研究所へ通学予定となります。

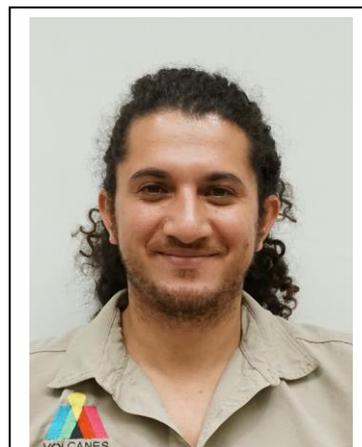
通学を開始した研修生は、「リモート講義」と「対面講義」を受講しています。対面講義のときは、訪日研修生が対面講義となり、訪日出来ない研修生はリモート講義となり、ハイブリッド形式での講義となります。

最後に日本国内での新型コロナウイルス感染症の11月の新規感染者数は沈静化しておりますが、研修員におかれましては感染症対策に気をつけながら研修に励んでいます。研修頑張ってください。

中米アメリカにおける大地震と火山活動との関係に関する新発見～国際地震工学研修の元研修員(コスタリカ共和国より)が同研修における研究成果として発表～

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎、主任研究員 林田 拓己

国立研究開発法人建築研究所では、国際地震工学研修のなかで、開発途上国の若手研究者と技術者を対象に、地震学・地震工学・津波防災の各分野に関する研修を実施しています。本研修は、独立行政法人国際協力機構及び政策研究大学院大学との連携により、政策研究大学院大学の修士課程プログラムとしても位置付けられています。この度、「地震工学通年研修」に参加したコスタリカ共和国の元研修員、ゴンザレス ジーノ氏(2019-20 通年コース)が中央アメリカにおける大地震と火山活動との因果関係に関する個人研修の成果を英国の国際学術誌「Scientific Reports」に発表しました。この成果は、国立研究開発法人防災科学技術研究



ゴンザレス ジーノ氏
(2019-20 通年コース)

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

所 藤田英輔総括主任研究員、国立研究開発法人建築研究所 林田拓己主任研究員 芝崎文一郎上席研究員らとの共同研究として取りまとめたものです。地震の発生と火山活動との因果関係を解明することは、地球科学における重要な課題の1つです。

中央アメリカでは、主に、グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカなどの国で、太平洋岸に多くの活火山が連なっていますが、2012年に中央アメリカ沖で10週間の間に3回の大地震($M_w \geq 7.3$)が発生した際、この地域の火山活動が活発化し、複数の火山が噴火しました。

本研究では、統計計算に基づく検証を行うことで、地震の発生と火山の噴火回数増加に明らかな因果関係があることを示しました。

また、これらの地震は、既に噴火の準備段階に入った火山にのみ、噴火を促す方向に作用した可能性が高いことも分かりました。

これらの結果は、日頃から火山の活動を監視することの必要性を示すものであり、火山災害を軽減する上で重要な知見となります。

本研究成果は、2021年11月17日にオンライン掲載されました。論文は以下のURLから自由に閲覧することができます。

<http://www.nature.com/articles/s41598-021-01725-1>